



「沿岸域塩淡水境界・断層評価技術高度化開発」研究

地下水研究グループ・物理探査研究グループ



【成果概要】

北海道幌延町において、地下水研究（深部地下水の観測と広域地下水流動解析）と物理探査研究（陸域の地震探査・電磁探査等と浅海域の電磁探査）のコラボレーションにより、深部地下の地質構造や水文環境を高精度に把握し、超長期的に安定した不動地下水の存在を探る研究が資源エネルギー庁の委託のもとに開始された。

【研究内容】

全体で5年計画のうち、初年度である19年度は、陸域の物理探査調査と広域地下水流動解析が実施された。次年度以降の研究のため、沿岸域の実験サイトにおいては、ボーリング（写真）が開始された。掘削が完了すると、孔間試験や単孔試験が実施され、概要調査における試験精度向上を目的とした試験方法の吟味がなされる予定である。さらに、本年度は浅海域での電磁探査のため、海域用の新型探査装置の開発を実施した。次年度以降の本格的な研究が期待される。

【研究成果はどう使われるか】

本研究の成果は日本原子力研究開発機構ならびに電力中央研究所の成果と統合され、地層処分に係わる沿岸域研究の取りまとめとして体系化される予定である。



上)幌延町浜里地区の現場、海岸から200mの地点で1,000m級の観測井と実験井を掘削し、深部地下水実験を行う予定。

(右)産総研幌延事務所の開所式で挨拶する丸井PL、町役場・農協・現地企業など多くの参加者に産総研の研究内容を説明した。

